

## 本校の学習・教育目標

- (A) 国際人としての教養を身につけ、人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。
- (A)－1 世界的視野から日本の文化，社会並びに他国の文化，社会を複眼的にとらえて，両者のあるべき関係について説明することができる。
  - (A)－2 人間社会に対する技術者としての責任を自覚し，自己の倫理観を説明することができる。
  - (A)－3 自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明することができる。
- (B) 社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。
- (B)－1 企業実習，工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出すことができる。
  - (B)－2 線形代数，微分積分，微分方程式に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。
  - (B)－3 力学，電磁気学，熱力学などの物理や化学に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。
  - (B)－4 情報技術に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。
- (C) 日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。
- (C)－1 日本語で科学技術論文を作成することができる。
  - (C)－2 自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき，論理的な討論をすることができる。
  - (C)－3 英語による基本的なコミュニケーションができ，専門分野において英語による口頭発表ができる。
- (D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣<sup>(D1)</sup>を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力<sup>(D2)</sup>をもった技術者を養成する。
- (D)－1 設計・システム系，情報論理系，材料バイオ系，力学系を含む工学の基礎となる学問分野について，自主的かつ継続的に学習することができる。
  - (D)－2 専門分野における工学的問題の解決を通じて，その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げることができる。
  - (D)－3 複数の専門分野における工学的問題について説明することができる。
  - (D)－4 技術開発を進めるに際して，安全，環境について配慮すべき事柄を説明することができる。

(E) 「ものづくり」を重視<sup>(E1)</sup>し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力<sup>(E2)</sup>を有する技術者を養成する。

(E)-1 与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現することができる。

(E)-2 与えられた製作課題を計画的に製作できる。

(E)-3 多様な条件の下で、技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめることができる。

#### ※サブ目標の説明

(B)-2、(B)-3 は、準学士課程で達成できる目標である。

それ以外は、準学士課程・専攻科課程ともに達成できる項目であるが、それぞれ基礎と応用・実践とのレベルの違いがある。とくに波線\_\_\_\_\_でラインを引いている項目は、専攻科課程でより深く学習することで、高度に達成できる目標である。